



各 位

会 社 名 岡藤ホールディングス株式会社
代 表 者 名 取締役社長 松 井 政 彦
(J A S D A Q ・ コード 8 7 0 5)
問 合 せ 先
役 職 ・ 氏 名 取 締 役 小 崎 隆 司
電 話 0 3 - 5 5 4 3 - 8 7 0 5

平成 25 年 3 月期第 2 四半期の連結業績見通しに関するお知らせ

平成 25 年 3 月期第 2 四半期累計期間（平成 24 年 4 月 1 日～平成 24 年 9 月 30 日）の連結業績につきましては現在集計中ですが、決算の概要がまとまりましたので、業績見込みをお知らせいたしますとともに、前年同期実績と比較して差異が生じる見込みとなりましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 平成 25 年 3 月期第 2 四半期累計期間の連結業績見込みおよび業績との差異

(単位：百万円)

	営業収益	営業利益	経常利益	当期純利益
前年同期実績 (平成 24 年 3 月期第 2 四半期累計期間) (A)	2,896	△442	△360	△986
当期実績見込み (平成 25 年 3 月期第 2 四半期累計期間) (B)	2,366	△126	△81	△79
増 減 額 (B - A)	△530	316	279	907
増 減 率 (%)	△18.3	—	—	—
(ご参考) 平成 24 年 3 月期実績	5,073	△1,231	△1,234	△2,579

2. 差異が生じた理由

当第 2 四半期連結累計期間におけるわが国経済は、震災復興関連を中心に公共投資が増加し、企業収益の改善とともに設備投資も増加基調にありましたが、海外経済の減速により輸出が鈍化し、生産は次第に弱含みとなりました。しかしながら、雇用情勢に厳しさが残るなかでも個人消費が底堅く推移し、内需全般を下支えしました。

商品市況は、米国の減産でひっ迫感の強まった穀物が上昇、生産国の情勢不安から貴金属は白金を中心に上昇し、新興国の成長減速で軟化した原油価格も反発するなど、商品市況全般は堅調推移となりましたが、全国市場売買高は、26,034 千枚（前年同期比 72.7%）となりました。

このような状況のなか、当社グループの中核事業である商品取引関連事業における受取手数料は 2,044 百万円（前年同期比 82.2%）となりました。また、売買損益につきましても、石油市場におけるディーリングは好調だったものの、その他のディーリング等が低調に推移したため、93 百万円の利益（前年同期比 87.7%）にとどまりました。

この結果、営業収益は 2,366 百万円（前年同期比 81.7%）となる見込みであります。また、営業費用につきましては経費削減効果により 2,492 百万円（前年同期比 74.7%）となる見込みであります。これらにより、営業損失は 126 百万円（前年同期は 442 百万円の営業損失）、経常損失は 81 百万円（前年同期は 360 百万円の経常損失）、四半期純損失は 79 百万円（前年同期は 986 百万円の四半期純損失）をそれぞれ計上する見込みであります。

以 上